

国内でのテロについて考える

宮坂直史（防衛大）

・昨日、2015 年 2 月 1 日配信 「イスラム国」からの声明 「日本の悪夢は今始まる・・・お前（首相）の国民はどこにしようとも、殺されることになる」

・このような、イスラム過激派から日本への脅迫は初めてではない。2003 年～2004 年にアルカイダ系から複数あった。「日本人殺害に金 500 グラム」「東京の中心を攻撃する」など。

・イスラム過激派による海外での日本人虐殺は、1997 年 11 月のエジプト・ルクソール事件（日本人は 10 人、全員で 62 名殺害）にさかのぼり、その後も何度もある。

・「アルカイダ」と「イスラム国」は現在反目しているが、組織の系統やイデオロギーから見ると同根。大きな違いは、「アルカイダ」は地下組織で、テロを世界に輸出していたのに対して、「イスラム国」は領域支配を固め、周囲の敵との戦争と「国」作りに忙しい。

・さて、国民保護に関係する事態の 1 つが、日本国内でのテロであるから、現在のグローバルなテロ情勢、過去のデータベース、事件のパターン、とられている対策などから、日本で起こりうるシナリオをいくつか提示し、その可能性を考えてみたい。

<シナリオ 1> 外国人テロリストが入国してテロを起こすか？

- ・1991 年の筑波大学助教授の殺害事件（未解決）のようなことが仮に再発しても、「国民保護事態」にはならないだろう。
- ・2004 年に発覚したリオネル・デュモン事案（横須賀も関係）があるが、日本でテロを起こすために出入国していたとは認められていない。
- ・全国の国民保護訓練の想定には、「外国人テロリストが入国してきて、テロを起こし、不審物（爆発物）を仕掛け、人質とって立てこもる」という想定がよくみられるが・・・少なくとも人質とか立てこもりは地の利がないと。
- ・「テロの未然防止にかんする行動計画」は外国人テロリストの入国を主に想定している対策が多い。もちろんデータ、情報がないと入国阻止できないが。

<シナリオ 2> ホームグロウンテロが日本でも起きるのか？

- ・欧米各国で 10 年以上前から深刻な脅威と認識されており、当該国で生まれたか、育った移民 2 世 3 世が青年期に「過激化」して、その国でテロを起こす。事件は多数起きている。今年 1 月のパリの連続テロはその 1 つにすぎない。
- ・しかし日本は、欧州主要国に比べてムスリム人口が桁違いに少ない。欧州で

1つのパターンとなっているモスクや刑務所での扇動やリクルートも、日本ではいまのところ事件となっていない。

＜シナリオ3＞「イスラム国」などに参加した者が戻ってきてテロをするか？

- ・「イスラム国」には世界 80 ヶ国から戦闘員が流入しており、その動機はさまざまである。ただし、「イスラム国」の支配地域に行ってから自国に戻ってテロを起こしたケースは世界中ではまだ非常に少ない。（自国内に居ながらして過激思想に染まってテロを起こしたケースはあるが。）
- ・日本からの渡航企てのケースはまだ非常に少ない。
- ・ただし日本は渡航を阻止するツールが刑法 93 条と旅券法くらいしかないので国連安保理決議 2178（2014 年 9 月）の要請（自国から海外テロ組織への参加などを規制することを求めている）には十分に対応できない。

注）これはテロ組織支援や関与の阻止のことであって、一般旅行者やジャーナリストの渡航規制の話ではない。あしからず。

＜シナリオ4＞ 日本人による国内大規模テロを考えなくてもよいのか？

- ・「東アジア反日武装戦線」と「オウム真理教」の歴史があるが、イスラム関係であるとすれば、その動機は、反イスラムの排外主義や、反多元主義か。
- ・ノルウェーで 2011 年に起きたアンネシュ・ブレイビク事件は、このような動機に基づいたノルウェー人が、同国内で同国民を大量殺傷したテロ（まず爆弾、場所を移しての銃撃。計 77 名殺害）である。もし、日本でこういう事件がおきれば、事態認定される余裕があるかわからないが、国民保護事態に相当するであろう。実行犯検挙後もしばらくは単独犯かどうかかわからない。
- ・爆弾を作らせない、軍用銃を入手させない、ネットのチェックなどで防止を。

＜シナリオ5＞ 日本人が小事と考える事件が、大事件に発展することもありうる。

- ・デンマークで起きたムハンマドの風刺画掲載（2005 年）は以降数年にわたり関連するテロ行為が続発した。今年 1 月のパリの事件も長引くであろう。
- ・富山県で 2001 年に起きた『コーラン』と『ハディース』の破り捨て事件では、日本在住のムスリムから集団的に抗議行動があり、それに対して、イスラムに無理解な日本人がいろいろとコメントを出していた。犯人は捕まり、大事に至らなかったが、事の展開次第では、たいへんなことになっていた可能性もある。これは、いつでも、どこでも起こり得る。シナリオ 1 も現実味。

これらの中でも最も見逃されるシナリオは、不寛容（シナリオ 4）や無理解（同 5）で、一部日本人の意識からも、これらをこの先、警戒すべきであろう。